

RKM 会報

2014年 8月発行 Vol. 10

編集・発行：RKM 幹事会
事務局：桑水流正邦
(くわするまさくに)

〒132-0035
東京都江戸川区平井
4-26-9 渡瀬方

メールアドレス：
rkm634@rkm634.jp

平成26年度総会報告

平成26年度RKM総会を6月10日(火)に日本教育会館(一ツ橋)にて開催致しました。新会員88期からは3名の参加があり、今年も10代から80代まで幅広い年齢層の50名の方々に出席いただき、賑やかな総会になりました。(前年より7名減でしたが、50名の大台をキープできたことは幹事団としてほっとしました。)

総会では、まず昨年度に亡くなられた瀬古(22期)・濱中(24期)両先輩の御冥福を全員黙祷で祈った後、久我会長の挨拶に続いて、新入会員88期の出席者3名の紹介と挨拶が行われました。その後、幹事会より「平成25年度活動実績・会計決算と監査結果」の報告と「平成26年度活動計画・会計予算」の提案があり、すべて満場の拍手をもって承認されました。

決算では、平成25年度も約66万円の剰余金を残すことができ、今年も現役支援金として20万円を贈呈することができました。また、予算では来年春に予定している国立代々木第二体育館でのRKMイ

ベント用に10万円を活動費として計上したことが、今年度の特記事項です。これらの詳細は、同封の資料をご覧ください。

続いて行われた懇親会の部は、今年度総会出席者の中で最長老の22期芹沢憲一さんによる乾杯の音頭で幕をあげ、グラス片手に賑やかな歓談の輪が広がりました。途中、23期黒板行二さんから瀬古さんと旧制時代の思い出話、29期佐室有志さんから濱中さんを最後にお見舞いした時の様子などが語られ、故人を偲びました。

会場には、29期の三ッ本さん、大澤さんからアーカイブに提供していただいた資料の一部である畑公(3期)が高校生時代のゲームスコアブックや、戦前の日本バスケットボール協会誌が展示品として置かれ、また、今年の現役インスターハイ予選時の写真や元旦バスケットの写真なども掲示されており、興味深げに見入っている人達もいました。

また、昨年度の総会で発案された「会場での寄付集め」ですが、

今年度は募金箱を準備してお願いに回ったこともあり、昨年を上回る6万5千円の協力が得られました。賛意をよせられた方々に御礼申し上げます。最後は、全員で恒例の集合写真を撮影し、今年度の総会をお開きとしました。

尚、総会後に新会員の88期川田祐一郎君から総会の感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

「この度はRKMの総会に参加させて頂きありがとうございました。OBの方たちとお話させて頂き、ついに自分も現役を支援する側になったのだと自覚しました。これから合宿や試合の応援等、積極的に現役をサポートしていきたいと思えます。」

次回総会予定

来年度の総会は、平成27年(2015年)6月上旬を予定しています。詳細は決定次第RKMホームページ、メールでお知らせいたしますので、皆様お誘いあわせの上、是非ご出席ください。同期会の会場として、総会を活用していただくことも歓迎です。



1



1：集合写真
2：世代を超えて談笑
3：78期木本君(山崎先生代理)へ現役支援金贈呈
4：アーカイブの展示

RKM会長挨拶

36期 久我 昭雄

この1年間のRKMのいろいろな活動や、今後やろうとしていることについて、総会や会報等で皆さまにご報告しておりますが、私からは3つお話ししたいと思います。

一つ目は、先日、29期の三ツ本和彦様から、初代RKM会長だったお父上、常彦さまの残されていたバスケット関係の資料をお預かりしました。これからRKMアーカイブの資料として、デジタル化を進め、皆さんにもご覧いただけるようにしていくつもりですが、インターハイの武蔵の戦評など興味深い資料をいくつか総会の会場にお持ちして、生でご覧いただき

ました。このような貴重な資料がなくなったりしない内に、アーカイブとして記録し、武蔵の、そして日本のバスケットボールの歴史の一部として保存し公開できるようにしたいと考えています。皆さんがご持ちの資料などのご提供をよろしくお願いします。

二つ目は、昨年から、若手会員の役に立てばと、就職活動支援体制をスタートさせました。会報でもご報告していますが、今後ともこれを通じていくためには、受け皿になるOBの方々をもっと組織する必要があります。幹事からもOBの皆さんに働きかけますが、後輩の相談に乗れる方は是非ご協

力をお願いします。

最後は、活動資金です。基本は皆さまからの会費ですので、この納入促進なのですが、それに加えて昨年の総会で臨時に寄付の箱を作ったところ、6万円もの臨時ご寄付を頂きました。もし、立派な寄付箱だったらどんなものだろうかと、今年は事前に箱を用意しました。会計の健全化には、幹事一同努力していることは、同封の会計報告でご理解いただけたと思いますが、心ある方、ゆとりある方々のご寄付を今年もお願いします。(尚、今年の総会では6万5千円ものご寄付をいただきました。どうもありがとうございます。)

今後も幅広い世代のRKM会員相互の交流や現役支援をしっかりと続けたいと考えておりますので、皆さまのご協力・ご参加をよろしくお願いいたします。

新会員88期紹介

キャプテン 福味 徹也

同期のメンバーは、浦 有郷 川田 祐一郎、櫻井 雄二、清水 一輝、戸田 陽、渡部 慶久 福味 徹也の7名です。都ベスト32を目標に、一年間の部活動を通じて互いに切磋琢磨できるように、また、身長で劣るものの走力とチームプレーで勝負できるようなチームを目指しました。

発足当初はバラバラだったものの、引退に向けて徐々にまとまってくる感触を感じられました。改めて、とても充実した一年間だったと思います。



左より川田君、櫻井君、清水君（平成26年度総会にて）

現役活動報告

体育科・高校コーチ 山崎 正晴

生徒援助金の使途

OB諸兄にはこの紙面をお借りいたしましたして厚く御礼申し上げます。例年と変わらぬご支援に生徒とともに感謝しております。ありがとうございます。

さてその使用についてですが、昨年秋季に新調いたしましたユニフォームの一部といたしました。中学、高校の連携、継続について意識させるべく同じデザインと

新チームについて

現高3チームは昨年に続きベスト32に届かず終りました。十分に選手の能力を発揮させることができなかつたように感じます。

さて新チームですが、今年の課題は昨年の継続と考えています。第一に走力です。次にはオフエンスで1対0を作るための共通理解とその結論であるシュート力です。このように大きく2つの課題を設定しております。選手にはオフエンス・1対0を作る、ディフェンス・1対1+αで守る、をチームコンセプトにハードワークに励ませていきます。私は都会のガリ勉たちを野性味あふれる選手へ変貌させようと叱咤激励、また率先垂範でこの一年頑張ろうと決意しております。

末文になりますが拙い指導の中、変わらずご声援ご支援いただき常々感謝しております。是非武蔵体育館或いは試合会場へお越しください。お待ちしております。最後にになりましたがOB諸兄のますますのご発展とご健康をお祈りし、拙文を終えさせていただきます。ありがとうございます。



試合中に指示を出す山崎先生

29期の集い「HGC」

29期 川浪 茂男

29期(HGC)の仲間は隔月に集まっています。なかなか出席率が良く、皆がその日を楽しみにしています。この形は長く続けやすい方法の一つと思われるので、ご紹介いたします。

偶数月のゾロ目の日と決めてある。すなわち2月2日、4月4日、6月6日という具合。13時から昼食を摂りながらお互いの状態を確認しあう。いろいろな情報交換する。幹事は無し、予約、開催通知、出欠把握などは無く、当日都合が悪くない人は毎度決められた場所に集まる。

場所は、有楽町の東京国際フォーラム地下1階のカフェテラス形式のレストラン。セルフサービスで、時間制限は無い。話題は自由で、当然、バスケットの話し、RKMの話しは毎回のように出るが、その他何でもあり。都合が悪ければ欠席自由でその通知も不要だが、ほとんど事前に誰かに伝えている。自然にそうなった。一昨年から続けているが、欠席者0〜2名/回程度で出席率はほぼ85%以上。現在の在籍者10名(外出困難者2名を除く)。

以前、皆が現役で仕事している頃は「満年幹事」が居る年に1回ご夫人同伴(任意)で夕食会をやっていたが、仕事を卒業する人が出

るようになってからは昼食会になり、その後、ほとんどの人が「毎日が日曜日」状態になってから今の形にした。この形になってからはご夫人の参加者は無い。何年かホテルの玄関近くのレストラン（昼食は予約を入れておけばその場で席を設えてくれる）でやるうちに、あるメンバーが見付けて、使ってみたら具合が良いので場所が固まった。

決め手は、約束事を日取り、時刻および場所に限り、その他は自由に行っていること、および良い場所を得られたことと考えている。都心の駅そば、昼休み終了時刻を狙い、サラリーマンと入れ替わる形で、毎度予約無しで10人程度の席を必ず確保できる。終了時刻の制約が無い・・・など。

いろいろな機能低下の歳を迎えて、心置きなく情報交換できる仲間が多数居ることは大変に心強く、武蔵でバスケットやったことが本当に有難いことになっていてと皆が思っています。仕事々々でやってきて、高齢になって良い仲間が得られないで寂しい思いや不安な思いをしている方は多いですが、お蔭様で我々は恵まれています。

議論はとことんする、ただ、お互いに他の人の考えを否定はしない。他人の考えを聴いて自らの考えを再考する、そういう仲間なのです。現役・部活動の中でそんな関係ができたのです。だから仲間の絆が続くのだと思います。これが全てです。

「HGC」の名の由来

当時、先輩方が年次ごとに自己の仲間の名をつけていました。最初は25期が「KIR」規則違反連盟、26期が「EGC」?という具合です。27期、28期は人が少なく、同期の固まりは出来なかつたようです。29期は2年生までで部活動をやめた人たちも最後まで現役を続けた人も、仲間意識は全員が現役時代と同じの付き合いが続けていました。高校1年生のときの15名です。3年生の秋、全員の現役活動が終わってもこの仲間の絆は変わらず続きました。それは今日まで続いています。

3年生の夏休みが終わって間もなく、誰からともなく「仲間の名前を付けよう」との声が出ました。25期、26期の影響を受けたことは間違いありません。何度か話し合う内誰かから「HGC」はどうかとの提案があり、各人の勝手な解釈で言い合った後に、「呼びやすいからこれでよし」、呼び方は「ハー!ゲー・ツェー」と決まりました。丁度独逸語が学科に取り入れられて習い始めていたことから、独逸語被れの空気があったのです。

何の略か、意味は何か、確定的なことは誰も分かりません。各人の勝手な解釈ですから。敢えて統一した意味付けはしなかった、というより出来なかつたように思います。意味を訊かれて答えなければならぬ時は「品行方正、学術優秀者クラブの略号」と答えるという統一解釈・申し合わせが作られました。

卒業後節目10年毎のOB報告

幅広い年代と分野で活躍されているRKM会員からの発信量も多くし、相互交流の一助とする目的で、卒業後10年〜50年の各節目の年のOBから、現役時代の想い出や近況について報告してもらうことにしました。今年は一桁目に8のつく期の人たちです。来年は9のつく期の人にお願います。また次の節目になりますので多くの人から発信される機会がつかれます。これを100年史の一章として残していきたいと考えます。皆様のご協力をよろしくお願います。

文武調和

78期 木本 健一

武蔵バスケット部を卒業してから約10年、この言葉の意味がようやく分り始めてきました。バスケットを頑張るのも、勉強を頑張るのも同じ一人の人間のやること。バスケットも勉強も、同じものとして真剣に取り組み成果を上げる。目の前のものすべてに全力を注いで活動することの大切さを身染みて感じています。

現在私はコンサルタントとして働いています。コンサルタント業務は、全体像を常に描きながら、

現在の業務の位置付けや重要性を頭に入れて、効率よく質の高い成果を上げることが求められます。また、複数のプロジェクトを掛け持ちして働くこともあります。一つのことに集中しているだけでは到底務まりません。

そして、コンサルタントとして働く傍ら、多岐にわたって活動の幅を広げています。武蔵の教師になり、バスケット指導に携わる夢を叶えるため、教職の勉強もしています。バスケットの審判の資格（JBA公認）を取るべく、審判活動にも力を入れています。「右脳を活性化」をキーワードとして、「英語速読」筆ペンを使ったアート作品を描く「己書（おのれしよ）」、会議でなかなか表面化されない、参加者の隠れた気持ちを可視化する「グラフィック・ファシリテーション」など、多くの活動に参加し、ワークショップの開催を行っています。

これだけたくさんすることに手を伸ばすと、時間が足りず、消化不良を起こしそうですが、全てのことに対して、同じ姿勢で取り組む。全力で取り組む。これが続いていると学びのスピードが上がります。吸収力があるんです。武蔵バスケット部で学んだ物事に取り組む姿勢が、私生活にも、ビジネスにも活かしていると実感しています。まだまだ成長段階ですが、文武調和の精神で、今後も活動の幅を広げていきたいと思っています。

ストリートバスケットリーグの展開

68期 小野田 博彦

現在、3on3形式のバスケットリーグを全国的に行う「SOMECITY（サムシティ）」というものを運営しています。SOMECITYは、東京、大阪、仙台で3on3のリーグ戦を興行として定期的に行い、その他各地方都市でもトーナメント戦を行い、毎年3月にそれらの優勝チームを集めて決勝大会を行っています。実施規模、実力共に国内では最高峰の3on3イベントとなり、開始から7年目を迎える積極的に拡大中です。



3 on 3形式のバスケットは近年、「3X3（スリーバイスリー）」という名称でFIBAにより競技化もされ、2020年の東京オリンピックからの採択へ向けて、積極的に活動をしています。日本でのストリートバスケットという市場はまだ始まったばかりですが、こういったオリンピックへのヨコシマな期待もあって俄かに盛り上がりを見せ始めています。

元々私の会社はバスケット関連のサイト運営や開発等を行っており、近いところにはいましたが、SOMECITYを立ち上げた人間が6年前に入社してきたのがきっかけで、急激にストリートバスケットの距離が近づきました。その後、SOMECITYの運営会社が経営上の都合で譲渡したいという状況になり、ある意味元の持ち主のところに戻ってきた次第です。

これらのバスケットに関する事業はまだ市場も小さく楽なビジネスではありませんが、やる人間の熱意は非常に高く文字通り人生をかけているし、彼らはその為の自己犠牲は何とも思いません。自分達の仕事で得られるもの、例えば顧客の興奮、選手達の情熱に溢れたプレー、これからできるであろう展開の可能性、外でバスケットをした時の雰囲気等、得られる（金銭面以外での）報酬は大きく、充実した日々を送っています。彼らは好きなことを仕事にして、夢を持って、毎日充実して、メシが食える

なんて最高だろうと羨ましがられることもあります。ただ経営者として未熟な故でしょうが、成功するまで執念で続けて血へドを吐きながらそこに辿り着くことが果たしてラッキーと言えることなのか、私にはまだわかりません。

SOMECITY設立の趣旨としては日本を外（ストリート）での「日常の」バスケットを定着させたことから始まったものであり、観るにしろするにしろバスケットを楽しむ人を増やすことが命題となっています。昨今ではプロや大学のトップ選手を呼んだり、週刊漫画誌に掲載されたりで知名度も若者中心に徐々にあがっている・・・つもりでいたのですが・・・先般の総会で新大学生に聞いてみたところ、SOMECITYも3X3も全く何にも知らなかったの、少々反省しました。知名度をあげる方法をご存知の方、どうかお知恵をお貸しください。

またご興味がある方はご一報いただければご指導ご鞭撻と引き換えに、関係者席をご用意しますのでお気軽にお申しつけください。日程等は、SOMECITYのWebサイトをご確認ください。

バスケット部卒業30年を振り返って

58期 松本 一郎

卒業後30年。1浪して早稲田に入り、平成元年（1989年）、朝日生命保険に入社、今年2014年5月に現在の会社に転職するまで、7社、6都市を渡り歩いたが、バスケットから離れたことは一度もなかった。いや、むしろ自分のこれまでの人生はバスケットともにあつたといつてもいいであろう。

中学時代はコーチに恵まれず、わずかに1勝に終わったが、高校時代、キャプテンを務めた3年生のインターハイ予選では5回戦に進出。後に実業団入りするポイントガードと207cmのセンターを擁し、東京都2位となった関東高校を相手に42点差で敗れたが、ベスト16入り。春の新人戦本大会で同校に99点差の大敗を喫したことをバネに、日夜、練習に明け暮れた結果、点差を57点縮めることができたことに納得して引退した。

大学では、体育会ではなく同好会に所属したが、敵にも味方にも全国大会経験者がゴロゴロいて、ゲーム前のアップでボースハンドのバックダンクが炸裂するような環境下で、初めてスタメン落ちの屈辱を味わった。しかし、この時、高校時代に散々、叩き込まれた運動能力が劣っていても、観察と

予測、準備を武器に戦い得る道があることを改めて発見し体得した。自分より背が小さく脚力もないスタメンのポイントガードの動きを舐めるように観察したのがキッカケだった。最終的に、ディフェンスとファーストブレイクのスペシャリストとしてシックスマンの地位を確立したが、アウトサイドシュートに課題を残したまま卒業した。

自分のバスケット技術が大きく進歩したのは、社会人になってからだ。元々、得意だったディフェンス、ファーストブレイク、ドライブイン、アシストパスに加え、スリーポイントシュートも決められるようになった。ジャンプシュートを捨ててセットシュートに絞ったことで飛距離が伸びたのだ。こうなると、もう怖いものなし。転勤で北海道の中標津町にいたこともあり、実業団や大学の体育会OBと対戦することがないのをいいことに点を取りまくった。アペレージで30点を超えていたと思う。弱小だったチームを釧路市内の強豪チームと渡り合えるレベルまで牽引し、町の小学生のレベルアップにも貢献して全道大会出場への道を拓いた。

その後、転勤で海外に赴任したが、激務の合間を縫って、バスケットもしつかり続けていた。NYでは日本人駐在員のチームに入り、市の体育館主催のコーポレートリーグで準優勝。後にエンタリーした

アンリミテッドリーグでは、チームメイト全員が日の丸を背負っているつもりで、10cm以上の身長差がある黒人たちに、目の色を変えて真剣勝負を挑み、互角以上に戦った。自分のバスケット人生が飛躍的に発展したのは、大学時代以降だが、その基礎を身につけたのは、間違いなく高校時代。畑公というバスケットボールに生涯を捧げた恩師のお陰である。自分のカラダには、いろいろな技術が、彼の言葉とともに深く刻み込まれている。「一歩目は低く大きく」「パスはノーモーションで」「突然、動き出せ」こうした技術の水準がいかに高度なものであるかは、アメリカでの黒人たちとの対戦を通じて実証済である。そして、自分は今も現役として、まだまだ進化を続けている。体力は年々、落ちて行くが、観察、予測、準備の質が、それを上回るスピードで高まって行くからだ。



2014年元旦バスケット部のプレー

刻み込まれている恩師の言葉は、バスケットボールの技術に関するものだけではない。「へばつたら、頑張り」これは元々、試合中に力を振り絞るための言葉なのであるが、社会人としての心構えにも通じるものがある。また、前述した、観察、予測、準備は、そのままビジネスにも応用することができるとの真理である。

今の会社でも、いつの間にか部下に、観察、予測、準備の大切さを説いていることが多く、仕事もバスケットのゲームと似ているところがあると思うことがある。職場では12名の部下を率いる経理部長という立場であるが、気分は指示を出しながらコート上を疾走するポイントガードなのである。

4歩5歩と八朔

48期 田中 卓

高校を卒業して40年が過ぎました。つまり北海道に住んで40年経ったことになりました。東京の喧嘩から離れ北海道でのんびり暮らしていると、あつという間に時間が過ぎ去ってしまったように感じられます。帯広で大学生活、釧路で就職して結婚、3人の子供に恵まれ、昨年以上の二人が結婚、昨年10月と今年の5月には孫も生まれました。それなりに順調に楽しい人生を送ることができたと思います。

こんな人生を過ごせたのも、6

年間を過ごした武蔵での経験、特に畑先生という素晴らしい指導者に巡り会うことが出来たこと、そして多くの友人に巡り会えたという幸運が、大きな要因の一つであると思っています。

長男が中学校でバスケット部に入部した時に話しを聞くと、私の知っている練習方法と全く違っていました。弱そうだなと思っていると、案の定非常に弱いチームでした。ただ練習時間だけが長く、何のためのどのような目的を持った練習なのか、全く理解できませんでした。練習時間が長すぎるために結局は手を抜き、集中力を欠いた練習だったのだと思います。二男は野球部でしたが、話を聞く限り状況は同じでした。

釧路では東京と大きく異なっていて大会の回数が多く、ダブルヘッダーがあたりまえです。それも土日の二日連続なので、結局は体力勝負のようなチーム作りとなり何kmもランニングをしていました。私達の頃はせいぜい4歩5歩(4歩ランニング、5歩ダッシュの繰り返し)でコートを3〜5周程度でした。練習方法も毎年同じ事を繰り返しているようでした。先輩が1回戦で負けたのであれば同じ練習を続けても結果は変わらないんじゃないの?もつと練習方法や内容を変えていかないと強くはならないよとアドバイスはしました。が、進歩はなかったようです。私達の頃はマンツーマンのオフエン

スフォーメーションに八朔(8つのパターンがあるという意味の8策ではなく、OBの差し入れが八朔ばかりだったのでそう名付けました)がありました。私達の練習中に畑先生が考えついたものだったと思います。

高校卒業以来バスケットとはすっかり離れてしまいました。いまは仕事の他にボイスカウトの隊長をしています。子供達と接するときなど、畑先生をよく思い出します。ガミガミ怒鳴っているわけではなく、チーム全員のひとりひとりの個性、良さを観察してその特徴をのぼし、その年集まった選手にとつて最も適しているチームを作り、そして最終的には我々を信頼してくれていたのだと思います。子供達と接する度にその難しさ、畑先生が如何に優秀であつたかを実感します。高校時代はそれが当たり前と思つていましたが、それが如何に貴重で素晴らしい体験であつたかが漸く理解でき、この幸運に大変感謝しています。

卒業後50年

38期 竹林 契矩

武蔵を卒業して50年が経ち、この原稿依頼があつて、改めて振り

返つてみても現役時代のことは残念ながら辛い思い出しかない。思い出すことは何時もインターハイに一度も参加できなかった悔しさである。何故なら、当時はインターハイに出場することは当然で優勝することが目標であつた時代であり、我々の学年から一度もインターハイ出場経験が無い時代が始まつたからである。夏合宿が始まつた時代でもある。170cm代のプレイヤーが2人のみ、160cm・150cm代が中心のチームで部員は10名に満たず、体育科の先生にも練習に参加を頂いてやっと5対5の練習ができた。部の存続すら話題になり、その危機感に真剣に悩んだ時代でもあつた。そんなチームでも畑公の情熱は変わらず、勝つための戦術を考え実践していた。

先輩達も合宿に参加して下さり良く鍛えて貰つた。そのお蔭で東京都のベスト4に入り、2部(1部はベスト4)ながら関東大会へ出場できた。

そんな訳で、卒業後はインターハイへの参加復活を願ひ度々先輩達の合宿に参加した。広島での春の合宿では、畑公に高校からの入学者に数学の補習をするように言われ、休憩時間に一緒に机に向かつたことも思い出す。そんな願いが通じインターハイ出場が途絶えて7年後に後輩達とその復活を果たしてくれた。ただ、過去のトラウマもあつて、栄光に輝く諸先輩と話をする気になれず、正直気持の

引け目もあり、暫くOB会やRKM総会からも遠ざかつていた。

社会人になってから、武蔵のバスケット経験者というだけで会社の女子チームの監督を10年間勤めた。部員数、経験者、練習時間等総て限られた条件の中で、関東実業団の3部ながら優勝して昇格し、代々木の体育館での試合を経験させることができた。それも現役時代の経験や畑公の教えを思い出しながら勝つために何をすべきか考えたお蔭であつた。

光陰矢の如し。少年老い易く、されどいろいろ学び経験した50年の年月が流れ、先輩と後輩の人の繋がりを大切にしている武蔵の良き伝統のお蔭もあつて、今は過去のトラウマからも解放されOB会やRKM総会にも楽しく参加している。最近では現役達の活躍の報告を見ながら、嘗て部の存続の危機に悩んだことを思い出しつつ心の中で叫んでいる、かの有名な監督の言葉と同じ「吾RKMは永遠に不滅です」と。



平成 26年度
総会にて

インターハイ予選観戦記

2回戦：対都府中西 78期 木本 健一
27期 鹿子木さんが観戦に来て下さいました。現役にお菓子の差し入れと、ためになるアドバイスを頂きました。

1)早いProgression(展開)で一貫してゲーム出来るのは素晴らしい。背景に、中高一貫校の利点と指導陣の適切さがある。

2)これ以上良くしようとしたら、各個人が自分の技術を磨かないといけない。シュートを入れる、ターンオーバーをしない。各人が次の試合までに心掛ければ相当の成果が現れると思う。自分が落としたシュート、犯したターンオーバーを具体的に思い出し、原因を突き止めて修正するように勧める。

3)リバウンドのジャンプが遅い。ルーズボール処理時に姿勢を下げる。これも、一週間意識すれば効果が出る。

4回戦：対東海大菅生 81期 三浦 辰彦
現高3の引退試合、中学時代から比べると、肉体的にも技術的にも精神的にも成長の見られた試合でした。リバウンドが取れず、簡単なミスも多いなど、まずい点は多かったけれど、#4は最後までチームを懸命に引っ張り続け、#13は下級生ながらカットインで上級生を助け、またインサイド陣は自分たちより高く強く巧い相手に懸命に食らいついていました。

結果としては、すべての面に対戦校に少しづつ負けていたのが点差に結びついたりと思われ。しかし普段の実力を出し切れればあるいは、とも思えるだけに、悔しくもあります。これで現高3は引退となりますが、バスケット部での経験をこれからの糧にして貰えればと願います。

高校試合結果

【関東大会予選】(1回戦シード)
2回戦：2014年4月20日(日)
武蔵○104-88●明学東村山

3回戦：2014年4月27日(日)
武蔵●73-81○筑波大附

【インターハイ予選】(1回戦シード)
2回戦：2014年5月18日(日)
武蔵○123-46●都府中西

3回戦：2014年6月1日(日)
武蔵○68-59●筑波大附

4回戦：2014年6月8日(日)
武蔵●61-95東海大菅生
(都ベスト64)

中学試合結果

【新人戦】
2013年10月6日(日)
武蔵○65-38●光が丘三

2013年10月13日(日)
武蔵●39-081石神井

【3区合同大会】
2014年4月13日(日)
武蔵○125-9●宝仙学園

2014年4月20日(日)
武蔵●42-071光が丘一

【都選手権予選】
1回戦：2014年6月15日(日)
武蔵○47-43●大泉北

2回戦：2014年6月22日(日)
武蔵●47-69○大泉西



インターハイ予選 対筑波大附

国立代々木第二体育館イベント 2015.3.26 決定!

昨年の冬会報でお知らせしたとおり、「国立代々木第二体育館」を借り切ったRKMイベントを検討していましたが、運よく来年2015年3月26日(木)の13時~21時に借りることができました。平日ですが、学生組は春休み、受験生も試験後で一段落中、社会人も仕事の後に集まれる時間帯まで使用出来ます。

内容は87期を中心に検討してもらうことにしました。OBも現役も楽しめる企画にしたいと考えていますので、アイデア・ご希望がありましたら、ぜひ幹事団にご連絡ください。

HCDへのお誘い

恒例の同窓会主催のホームカミングデイが、9月13日(土)午後2時から開催されます。RKMでは、高中体育館にて2時~4時に現役との交流試合とフリースロー大会を行います。昨年は、22名のOBが姿をみせてくださり、15名が現役との試合を楽しみました。OBが多く集まるとOB同士の試合もできますので、同期や近い年代の方をお誘い合わせの上、是非コートに足を運んでみてください。幹事一同コートでお会いできることを楽しみにしております。

また、4時30分からは高中図書館棟で合同懇親会も開催されます(懇親会は会費制ですが、その一部が現役への寄付となります)。

春のゴルフ会報告

58期 松本 一郎

2014年3月19日、千葉県市原市浜野GCにて、RKMゴルフ会が開催され、27期から58期まで御茶ノ水OG4名、関係者を含む26名が参加、和気あいあいとした中にも熱戦が繰り広げられ、川浪猛さんがグロス89、HD16.8、ネット72.2で見事、優勝を飾られました。

終了後に行われたパーティーでは、表彰式に続いて、初参加の36期サッカー部OB中野さん、優勝者の34期川浪猛さん、ベストグロを獲得された御茶ノ水OG片木さん(ア

ウト43、イン42、グロス85)、最後の27期鹿子木基さん、32期印南さんの諸兄からスピーチを頂戴しました。一説によれば、本ゴルフ会の歴史は45年間にわたるそうですが、今年2回の開催ペースから推計すると、今回が第90回に当たるはずとのことでした。優勝者の川浪猛さんからは「本ゴルフ会のような人付き合いの場をキープすることが長寿の秘訣であろう」、印南さんからは「ゴルフとバスケットの間には不思議な共通点がある」との大変、興味深いお話が披露されました。

最後に幹事より「次回は嵐山CCにて11月5日(水)開催」との連絡があり散会となりました。

RKM 就活支援のご案内

幹事会では就活支援の実施を考え、皆様へ就活の情報を提供しています。就活を控える学生の方には是非活用しましょう。下記までご連絡ください。

連絡先：78期 木本健一
090-5769-0199
k.kimoto0731@gmail.com

【物故者】

平成26年1月以降に亡くなられたRKM会員をご報告させて頂きます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
・青山 好宏様(29期)
平成26年7月8日ご逝去